

各位

J X石油開発株式会社

早稲田大学による CCS プロジェクトの安全性向上を目指した研究への寄付について

当社（社長：中原 俊也）は、学校法人早稲田大学（早稲田大学教授 古井 健二研究室、以下、「早大」といいます。）が実施する CCS（注 1）プロジェクトの安全性向上を目指した研究に対して寄付を行いましたので、お知らせいたします。

当社は、日本最大のエネルギー・資源・素材コンглоメリットである ENEOS グループの主要な事業会社として、世界各地で石油・天然ガスの開発事業を展開しており、近年は、石油・天然ガス開発事業に加え、CCS/CCUS（注 2）を中心とした環境対応型事業にも注力する「二軸経営（注 3）」を推進しております。今般、その環境対応型事業への取り組みのひとつとして、CCS プロジェクトの安全性向上を目指した早大の学術研究活動に対して寄付を行うものです。

早大は、これまでに水圧破砕法や酸処理といった油ガス田の生産能力向上に関する研究や出砂対策、坑井安定性解析、貯留層流体の漏洩といったジオメカニクス（岩盤力学）に関連した諸課題について、地下開発の安全性向上と環境負荷低減のための研究や岩盤の破壊・変形をシミュレーションするための数値モデルの開発に取り組んでいます。

脱炭素・カーボンニュートラル社会への移行に向けて、二酸化炭素（以下、「CO₂」といいます。）貯留権の設定などの法整備への議論が進む中、今後、CCS プロジェクトの民間主導の事業化が予想されており、より安全な CCS プロジェクト実現に向けて、十分な準備を行い、リスクを定量的に評価した開発計画を作ることが重要です。本研究により、CO₂ 地中貯留候補地を想定した広域ジオメカニクスモデル（注 4）の開発と貯留層への流体圧入によるリスク評価プロセスの構築をとおして、CCS プロジェクトの安全性向上が期待されます。

以上

（注 1）CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出される CO₂を回収し、地下に圧入・貯留する技術。

（注 2）CCUS: Carbon Capture Utilization and Storage の略。排出される CO₂を回収・貯留することに加え、新たな商品やエネルギー生成のために利用する技術。

（注 3）二軸経営について：https://www.nex.jx-group.co.jp/corporate/philosophy_noex.html

（注 4）広域ジオメカニクスモデル：地下の岩盤の強度・変形特性、応力・孔隙圧状態、断層の分布や地層の厚さなどの地下構造情報を考慮したモデルのこと。

添付資料



早稲田大学古井教授(左)とJX石油開発山田副社長(右)



研究内容についての意見交換